

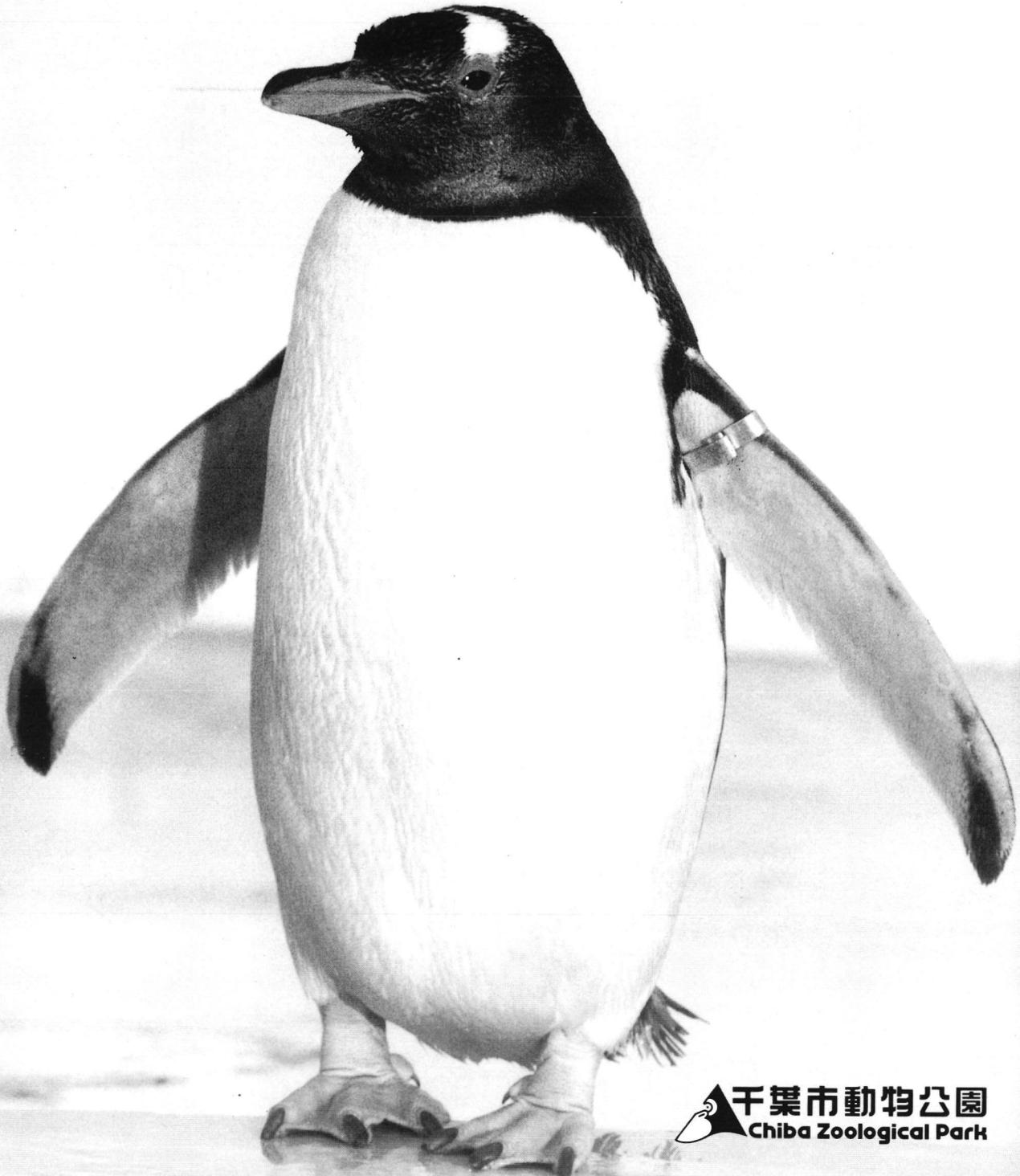
どうぶつこうえんニュース8号 正誤表

ページ	位 置	誤	正
2	左側下から6行目 右側上から2行目 右側下段	「房統の動物」 どうぶつと私 193点	「房総の動物」 どうぶつと私 ・193種
7	右側下から5行目	物動	動物
10	右側上、下から2行目 右側下、下から6行目	あたたかく 袋	あたたかく 袋

どうぶつこうえんニュース

Chiba Zoological Park News

No.8



どうぶつと私…(4)

Animals and I

房総の動物を調べる

Checking the animals in Boso area

成田 篤彦

千葉県総合教育センター



雪の多い東北地方から温暖な気候に憧れて、房総に住み着き、房総南部の穏やかでやさしい山々や溪流に魅せられて、その動物をいろいろと調べてきた。

はじめて、調べたのは房総のほぼ中央を流れる養老川の鳥類であった。

養老川の流路は約72kmであった。それを7区画にわけて、河口から最上流まで、川の中を歩いて、観察される全ての鳥類を記録していった。上流地域には、カワセミ、ヤマセミなど美しい野鳥をたくさん観察することができた。この調査をしたおかげでほぼ房総半島の地形の環境をつかむことができた。

次に、カジカガエルの房総の分布を調査した。そのときも養老川の全ての支流を歩いた。また、生息しているとの情報があった河川は、実際に行って生息を確かめた。

カジカガエルの調査と同時にトウキョウサンショウウオの調査も行ってた。

不思議なことに、下総台地には生息のための環境条件が揃っているにもかかわらず、カジカガエルもトウキョウサンショウウオも分布していないことがわかった。

何か私の予想できない大きな理由があるのではないかと考えた。

そして、「昔、海であった下総台地には生息していない」と気付くのにずいぶん時間がかかった。

そのことがわかってから平凡な自然だと思っていた房総の動物に次第に引かれるようになった。

その後、東洋大学の東野正男教授の書いたガリ版刷りの「房総の動物」という冊子をいただいた。その冊子で房総南部にそこにしか生息していない固有の小動物が生息していることを知って、房総の動物にますます興味を引かれるようになった。

それ以来、今だに機会を見つけては、房総の山々を歩き、動物を観察し続けている。

目次

表紙・ジェンツーペンギン…	1
どうぶつと私(4)……………	2
房総の動物を調べる	
グラビア……………	3
アミメキリン……………	3
愛鳥週間特別講演……………	4
ニホンコウノトリの雛の誕生……………	4
第4回サマースクール……………	5
飼育レポート……………	6
カンガルーの人工哺育……………	6
動物公園の動物④……………	7
動物公園の施設④……………	7
動物公園日誌から……………	8
飼育よもやま話……………	10
健康管理センターから……………	11
昭和63年度(後期)行事予定……………	12
動物公園案内	

表紙の動物説明

ジェンツーペンギン

ジェンツーペンギンは中型のペンギンで、頭にヘッドホンの形をした白い模様があるのが特徴です。泳ぎはうまく、陸に上るときはロケットのように水の中から飛び上がります。南極周辺の島々にすみ、春になると海岸近くの湿った地面の上や草の中に卵を産み、オスメスが2・3日交替で腹ばいになって卵をあためます。

19世紀に油を取るためにたくさん殺され、卵が取られたため減少しましたが、現在では保護されています。当園では鳥類・水系ゾーンで飼育展示されています。

動物飼育数

(昭和63年7月31日現在)

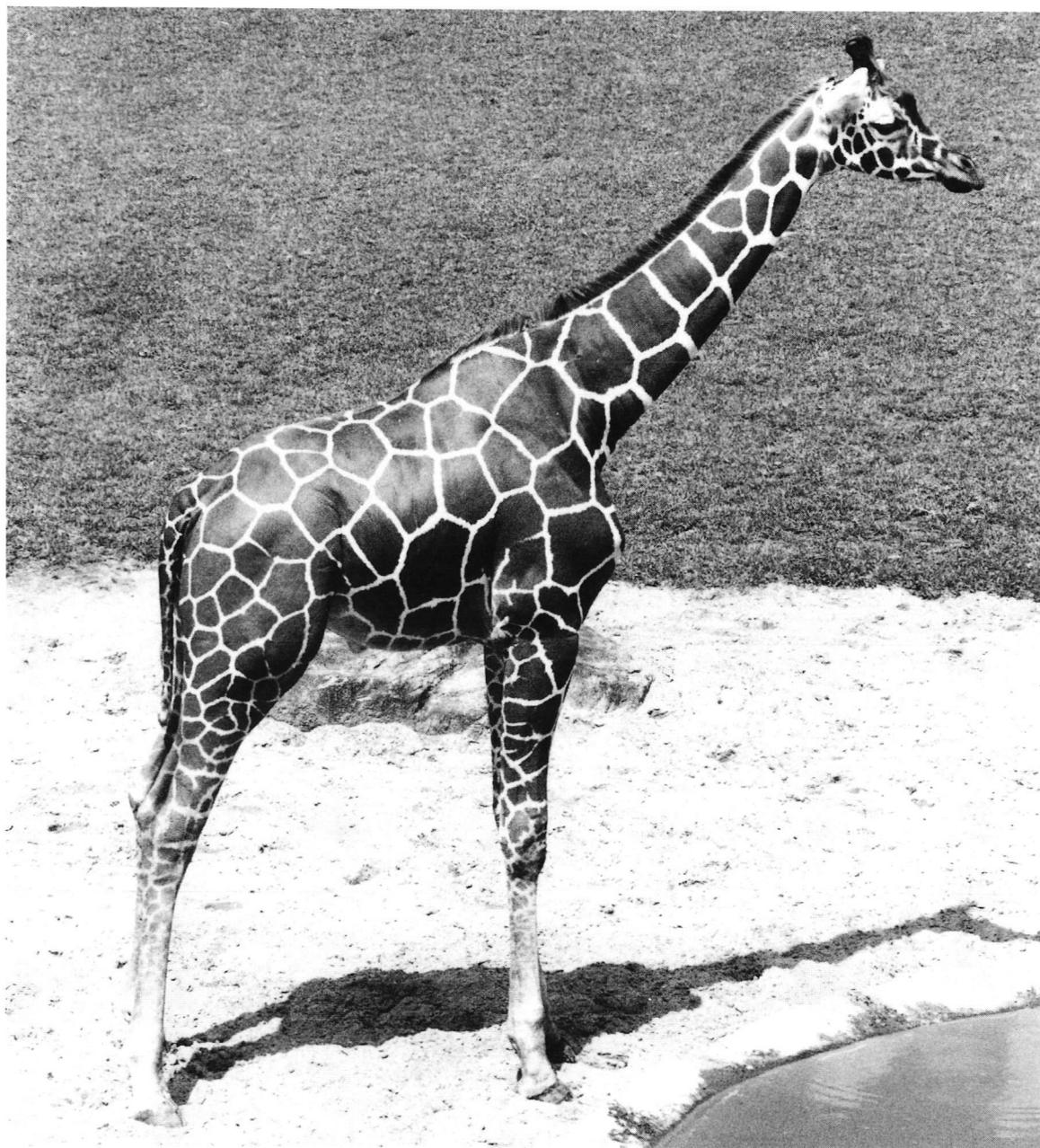
哺乳類	86種	450点
鳥類	100種	362点
爬虫類	4種	21点
両生類	2種	4点
魚類	1種	2点
総計	193点	839点

グラビア

アミメキリン

Reticulated Giraffe

哺乳綱 偶蹄目 キリン科



待望のキリンが3頭おめみえいたしました。このキリン達は体の模様からアミメキリンと呼ばれ、アフリカのケニア付近が故郷です。3頭とも国内の動物園で生まれたもので、まだ2オの子供ですが、背の高さは3メートルを越えています。以前は飼育が大変難しい動物でしたが、今日では技術も上がり各地の動物園で繁殖するようになりました。早くかわい子供姿を御覧に入れたいものです。
(宗近 功)

愛鳥週間特別講演

The Bird Week Special Speech

ニホンコウノトリの雛の誕生

Breeding the Japanese White Stork

伊東 員義

(元多摩動物公園飼育課)

多摩動物公園は今年30周年(1958年開園)を迎えました。この節目を祝うかのように長年の課題の一つであったニホンコウノトリに待望の雛が4月5日に孵りました。

ニホンコウノトリは長い脚と嘴をもち、体の白色と翼の黒色が美しいコントラストを描く美しい鳥です。全長約110cm、体重約5kgです。コウノトリ科には17種が広く世界中に分布していますが、このうちアジアに生息するニホンコウノトリ(コウノトリの亜種)、コバハシコウ(シロエリコウの亜種)、シロトキコウの3種において野生での生息数が減っています。3種のなかでもニホンコウノトリの数が一番少なく絶滅が心配されています。

ニホンコウノトリは東アジア(シベリアから中国)に分布し、その生息数は約500羽だと推定されています。明治以前は日本の各地でみられ松の上の鶴として描かれ、留鳥として繁殖もしていました。日本における野生での最後の雛の繁殖は1964年でした。しかし、明治以降の乱獲や農業汚染など様々な要因が重なり、ついに野生最後の個体が1971年に死亡し、日本産の野生種は消滅しました。その後、各地でときどき観察される個体は大陸から漂行してきたものです。

【人工増殖の試み】

明治以降の飼育の始まりは1885年(明治18年)上野動物園まで遡ることができますが、意図的な人工増殖の開始は1963年の文化財保護委員会の人工飼育の決定がなされたことに始まります。まず野生の巣から採卵した卵の人工孵化が1963~1965年に3回13卵において行われましたが、孵化にはいたりませんでした。そして1965年に野生の1ペアを捕獲、豊岡での人工飼育へと移行しました。これに呼応して1966年には中国、北京動物園から6羽が王子動物園に贈られ、動物園での取組みも始まり、京都、天王寺、多摩などの動物園がこれに加わり様々な飼育努力が積み重ねられました。飼育個体は1951年の王子動物園での個体から50羽をこえています。そして、豊岡と多摩で6ペアにより1965年から1986年に92卵の産卵がみられたものの雛の誕生はみられませんでした。

【多摩での飼育】

多摩動物公園での飼育は1972年に始まりました。漂行中の保護2、中国、北京動物園より4、中園、ハルビン動物園より6、中国、上海動物園より2の14羽が来園しました。このうち5羽が死亡しましたが、この間(1972~1988)、4ペアの形成に成功しました。しかし、2ペアは1986年の秋までに相次いで失ってしまい、急速1987年の春、ペア作りを行い、新たな2ペアを作り出しました。

他のコウノトリの仲間と比べてニホンコウノトリの



ペア作りは難しく、気のあった個体同士を選び慎重に同居を試みないと一瞬の攻撃により大事なメスを失うこととなります。

今までの経験から、剪翼により飼育することが受精率の低さの原因の一つかも知れないと指摘されてきたため、新たなペアは翼を最初は仮切りとし、環境を調べ(飼育者との距離を縮める、静かな環境作り)、ケージのなかで特別異常なことがなければ大きく飛ぶことがないようにし、翼の羽が伸長するのを待ったのです。餌は1羽あたりアジを800~1000gを給餌し、ときどきバツヤやオキアミ、マウスなども試してみたのですが、アジを除いて採食は良くありませんでした。

【1988年春の繁殖行動】

2月15日からオスの黒に巣材運び行動がみられはじめました。巣材として枝や枯れ草を毎日のように継ぎ足してやるとオス、メス(黄)共同で巣材を運び巣を造りあげました。直径約2m、高さ約80cmの巣で巣材運びはオスが熱心でした。このころ、嘴をならすクラッキング、頭のあげざげ行動、相互羽づくろい、小枝くわえなどの求愛行動も多く観察されるようになりました。交尾は3月2日に確認できました。

そして待望の産卵は3月4、6、8、10日にそれぞれ1卵ずつ確認でき、1腹4卵でした。

産卵直後から卵を抱きはじめ、抱卵はオス、メス交代で行い、一瞬たりとも2羽ともに巣を離れることはありませんでした。昼間の抱卵行動の観察ではオス44.2%、メス44.5%であり、残りの11.6%が交代や卵を冷やす時間でした。抱卵持続時間は平均約30分で長くても約60分でした。また昼間1日あたりの平均転卵回数及び抱卵交代回数は6回でした。産卵から32日後の4月5日の朝、1羽の雛が孵化しているのが確認されました。そして翌6日朝には2羽目、7日には3羽目の雛も孵化しました。飼育下での日本初のニホンコウノトリの雛の誕生でした。

私達は野生では生存が危うくなった種にどんなことができるだろうかというテーマに向かって動物園の内側から多くの先輩や仲間とともに努力を積み重ねてきました。このニホンコウノトリの雛の誕生はこの長くて先の見えない道の一つの塚にしかすぎないと考えます。動物園に理解を示して下さる多くの人々と協同して、さらなる努力を続けたいと思います。

第4回サマースクール

The Fourth Summer School

動物たちとの1日



動物公園第4回サマースクールが7月26日～28日の3日間、小学1年～6年生146名が参加して開催されました。

サマースクールも年を重ねるごとに応募者が増え、毎年つづけて参加する子が多数見受けられました。

今年は、梅雨明けが遅れ、当日はあいにくの雨のなかみんながんばって参加してくれました。正門で受付をすまし、科学館で説明を聞いた後、7班に別かれて飼育体験に入りました。

4月20日に二次開園をし、ゾウやキリン、シマウマなどが仲間入りしたので、草原ゾーン班、鳥類・水系ゾーン班、ゾウ班が新たに加わりました。

当日はいろいろな事をしてもらいましたが、その一部をご紹介します。

ゾウ班では、部屋をそうじした後、ゾウのうんちの重さを計りました。1回約4.5kg、1日15回ぐらいで約67kgになります。みんな

自分の体重よりも多いうんちをするのでおどろいていました。鳥類・水系ゾーンでは、ペンギンの放飼場をそうじしたあと、ペンギンのエサ(アジ)を投げ与えました。草原ゾーンでは、キリンの室の天井が高いのにおどろいていました。子ども動物園班では、そうじの後、羊の毛で毛糸の作り方をおしえてもらいましたが、なかなか細い糸にならず苦戦していました。

昼食を食べおわると、朝おとなしかった子供たちも慣れてきたのか、雨の中をかけ廻ったり、飼育係のおにいさん、おねえさんとお話しをしていました。午後は各班に分かれて、園内見学などを行いました。最後に、レクチャールームで園長さんより一人一人修了証と記念バッヂをいただきました。少し疲れたようでしたがみんな満足そうに帰って行きました。このような体験を通して、動物を飼うこと、動物園の仕事を少しでも理解してもらいたいと思います。来年もまた参加してくれることを楽しみにしています。

カンガルーの人工哺育

Hand-rearing the kangaroo

昭和63年2月16日、オオカンガルーが到着しました。雌2頭だけでしたが1頭の袋がかなり大きく、中にだぶ育った子供が入っていました。この親の名前をウノとつけました。自分の最初の担当動物ということでウノにしました。その後、3月2日に雄1頭、雌2頭が到着して、計5頭を一つの部屋で飼育することになりました。

4月9日、ウノが朝から元気がなく仰向けになって寝ころがり、体を左右にふって苦しそうだったので、すぐに治療をしてもらい、1頭だけ別にして1日ようすを見ることにしました。一日たっても良ならず、次の朝麻酔をかけてレントゲンを撮ることになり、ウノをレントゲンの台に乗せたとき袋の中から子供が跳び出てしまいました。とりあえず別にして、ウノが良くなれば袋の中に戻すようにしたかったのですが、その日も良ならず、子供は人工哺育することになりました。

私にとっては初めての経験なので班長に聞いたり、またカンガルーの人工哺育は1958年にアカカンガルーの例があり、その文献を参考にしたりして4月10日から人工哺育を開始しました。

名前をシェリーとつけました。

シェリーは到着した次の日の2月17日に顔を出していたので、4月10日で生後8ヶ月ぐらいではないかと思われました。

自分で立ち、ゆっくりと跳躍もできましたが、今までずっと親の袋の中にいたので、麻袋に入れて親の育児袋の代りにしました。

体毛や下の門歯は、はえそろって体重は1700gでした。保育場所は動物病院の一室で赤外線灯をつけて保温しました。

初めての授乳は午前9時30分で、温めた牛乳を注射器で与えましたがほとんど飲まず、2時間後に再び与えると少しずつ飲み約50ccほど飲みました。以後2時間おきに授乳しましたが、1回に20ccぐらいしか飲まず、午後10時にカテーテルで40ccほど強制的に与えてその日は終りにしました。

親のウノは残念なことに午後10時半過ぎに急性肺炎で死亡しました。

4月11日、朝6時に授乳のためシェリーに近づくと、「ガァー」と鳴き、袋から出て私の方に寄って来ました。この日は授乳回数6回で総量195ccほど飲みました。排尿排便を促すため授乳ごとに排泄孔のまわりをマッサージしました。

4月12日より牛乳の中に卵黄 $\frac{1}{4}$ 個、ブドウ糖液0.25



シェリー

mlを添加して与えることにしました。牛乳に他の物を加えたので嫌がるかと思いましたが特に嫌がることもなく飲みました。

4月14日から一回当たりの授乳量が増えたので、授乳回数を4回、5時間おきにしました。

4月19日、麻袋の中に自分で排便し、また外の草むらに出してやると喜んで跳びまわり、私が歩くとその後を跳びながらついて来るようになったので、この日から昼間10~15分ぐらい外に出して運動させるようにしました。

その後も授乳量・体重とも順調に増加し、5月2日には一回60~70ccほど飲むようになったので、授乳回数を3回にし、リンゴ、サツマイモ、ニンジン、小松菜、食パン、青草などを細かく切って与えて離乳を始めました。

5月8日には青草なども良く食べ、糞も親と同じような黒くて丸い形になりました。

5月10日、人工哺育を始めて1ヶ月、体重も2300gになり今後の成長が楽しみです。

(伊場 真彦)

動物公園の動物 ④

Animals in the Chiba Zoological Park

～ミーアキャット～

Meerkat

アフリカの南部に群れて生息するミーアキャットは、体長が25～35cm位で、地面に穴をほり、そこを巣にして生活しています。そしてその姿は、明るい灰色の毛をしていて、背には黒いしまがあり、目のまわりと耳は黒いという、ひょうきんでかわいらしい姿をしています。このような容姿だけでも動物公園の人気者になる素質は十分なのですが、彼らの魅力はゆかいな仕事にもあると思います。

まず、ミーアキャットを見て、かわいらしいと感じるのは、前脚をあげて胸の前にたらし日光浴をしている姿でしょう。彼らは日光浴が大好きでよく太陽の方をむいてすわっています。この習性は太陽崇拝とよばれています。

また、同じようなポーズでも後脚をいっぱいにおし背のびをしているようなものは見張りをしている状態です。彼らは草原などひらけた土地に住んでいるため、常に見張りをしている個体があります。捕食者が現われると、見張りは犬の鳴き声のような警戒音を発します。すると群れの全員が巣穴に逃げこむのです。



彼らの巣穴はたいへん広大で、10～30頭ぐらいの群れがいっしょに生活しています。そればかりか、ジリスの仲間もいっしょに住んでいることもあるそうです。彼らは一生懸命に穴をほり密接した穴には無数の入口があります。なかにはトンネルの幅が7～15cmもあり、深さが地下3mにまで達しているものもあります。

こういう大きな巣穴を掘るミーアキャットのエネルギー源となる食事は昆虫を中心とした肉食で、トカゲサソリなどみつけたものはなんでも食べてしまいます。また果実や地下茎などの植物質のものも食べます。

動物公園では草原ゾーンの一面に現在4頭のミーアキャットが展示されています。たくさん掘られた巣穴から子供の顔がのぞく日を期待しています。

(浅野 洋之)

動物公園の施設 ④

Facilities of the Chiba Zoological Park

～小動物ゾーン～

Small Animal Zone

これから紹介する小動物ゾーンには、みなさんがテレビなどでもおなじみの小型で可愛いらしい動物達を集めて展示しています。

どの放飼場も、動物達が見やすいような形式がとられており、動物によっては視点をえ水で泳いでいる様子などが詳しく観察できるよう工夫されています。

それでは、このゾーンに展示されている動物達の紹介をしましょう。

まずは、大きな木も鋭く出っぺた前歯で、いとも簡単にかじり倒してしまうアメリカビーバー。リンゴやジャガイモを両手でつかみ、前歯でカリカリと食べている姿をみると、前歯のすごさ、手の使い方の器用さにおどろかされます。また、このビーバーと一緒に池に住んでいるのが、オウギアイサ、ホシハジロといった水鳥です。水の中に潜ってエサを取るしぐさは、ぜひ見てもらいたいです。

その隣りの放飼場では、小動物ゾーンの中でも、みなさんが一番よく知っているタヌキが展示されています。もともと、夜に活動することが多く、昼間は寝て



レッサーパンダ舎

いることが多い動物です。

カナダカワウソは、陸地での動き、水中での動きとも、大変愛嬌のある動物で、その動きの一つ一つは、見る人を、充分楽しませてくれます。最近、テレビなどで人気の動物のラッコとまちがえる人も少なくないようですが、カワウソとラッコの違いなども観察してみるのも楽しいかと思われま。

最後に、小動物ゾーンの中でも、特に人気を集めている物動、レッサーパンダの紹介です。愛らしい顔とお尻をふりふりして歩く姿を見ると、誰もが「可愛い」と叫んでしまうのではないのでしょうか。

以上の小型で可愛いらしい動物達のユーモラスな行動を、みなさんも楽しんで観察してみてください。

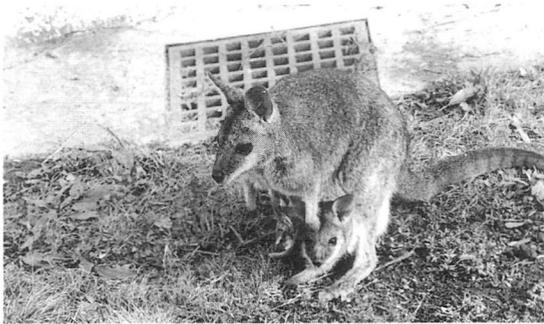
(古谷 保生)

動物公園日誌から

From Zoological Park Diary

88年1月1日～88年7月31日

- 1月5日 新春特別展示「恐竜」開催（～1月31日）
- 1月6日 アカコンゴウインコふ化
- 1月10日 「動物公園新春のつどい」開催
- 1月11日 飼育研究会「シマウマとツル」について
- 1月16日 ヨツヅノヒツジ（オス）死亡
- 1月30日 パタスザル死亡
- 2月6日 アカテタマリン繁殖（人工哺育）
- 2月7日 園内バードウォッチング開催
" アカノドゴシキドリ死亡
- 2月8日 飼育研究会「鳥のkokoshijium症について」
- 2月10日 アカテタマリン死亡
- 2月12日 イワドリ産卵（14日に2卵目）
" 千葉県高校教育研究会生物分科会開催（教師130名）
- 2月18日 カピバラ繁殖（2頭）
" シルバーマーモセット死亡
- 2月19日 オウギアイサ死亡
- 3月1日 アカコンゴウインコ死亡（ヒナ）
- 3月6日 動物紙工作教室開催
" ファンホルトペンギン産卵
- 3月7日 飼育研究会「当園における人工ふ化について」



- 3月8日 ダマワラビー袋から仔が顔を出す
- 3月10日 イワドリふ化
- 3月15日 マントヒヒ、オセロット、オグロプレーリードッグ、ミニプタ、ヤク、イワドリ、ハイロコクジャク業者へ搬出
- 3月16日 ビグミーマーモセット繁殖
- 3月25日 アカテタマリン繁殖
- 3月30日 ゾウ舎壁画完成
- 4月1日 動物公園新規職員採用（2名）
- 4月4日 ムフロン繁殖（5日にも繁殖）
" 飼育研究会「キツネザルについて」
- 4月7日 フタコブラクダ繁殖

4月14日 ベンガルヤマネコ沖繩子供の国へ移管



- 4月18日 ファンホルトペンギンふ化
- 4月19日 オグロプレーリードッグ繁殖



二次開園のテープカット

- 4月20日 二次開園
" コクガン、アフリカハゲコウ死亡
- 4月21日 ムフロン繁殖
- 4月22日 イワドリ巣立ち（ふ化後44日目）
- 4月24日 二次開園に伴う催物（20日～26日）
" マナヅル死亡
- 4月26日 アビシニアコロブス繁殖
- 4月27日 タヌキ繁殖
- 4月29日 エリマキキツネザル繁殖
" ショウジョウトキ死亡
" ニホンザル繁殖（2例）
- 5月1日 オグロプレーリードッグ繁殖
- 5月5日 エリマキキツネザル繁殖
- 5月6日 ダマワラビーの仔袋から出る
" パタスザル繁殖（人工哺育）
" オウギアイサ死亡
- 5月9日 飼育研究会「日本におけるレッサーパンダの飼育繁殖状況について」
- 5月10日 来園者200万人突破
- 5月11日 セスジクスス繁殖確認
- 5月12日 昭和63年度第1回関東東北ブロック園館長会議開催

- 5月12日 ニホンザル繁殖
- 5月15日 ヤイロチョウ死亡
- 5月17日 ビグミーマーモセット死亡
- 5月18日 ヨツツノヒツジ繁殖(1頭)
- 〃 ワタボウシパンシエ繁殖(2頭)
- 5月21日 チンチラ繁殖
- 5月22日 愛鳥週間特別講演(講師:伊東員義)
- 5月25日 テンジクネズミ繁殖
- 5月27日 オウギアイサ人工ふ化(28日・31日にも1羽ずつふ化)



開催風景

- 5月29日 羊の毛刈りと紡毛教室開催
- 5月31日 オオタカ死亡
- 6月1日 オナガキジ(3羽)人工ふ化
- 〃 ヘビクイワシ死亡
- 6月2日 ミーアキャット死亡
- 6月4日 5月29日から本日までハシボソミズナギドリの保護受け6件あり
- 〃 セスジクスクスの仔袋から出る
- 6月5日 動物を計る会開催(千葉県計量検査所と共催)・ゾウ(スラタラ)の体重は555kg
- 6月6日 飼育研究会「カワウソについて」
- 6月7日 リスザル繁殖(1頭)
- 6月11日 フンボルトペンギンのヒナ1羽死亡その為残りの1羽は人工育雛に切り替える
- 6月19日 キタヤマドリ死亡
- 6月27日 ニホンザル繁殖
- 7月1日 ショウガラゴ繁殖(1頭)
- 〃 オオコノハズク保護
- 〃 オナガキジ繁殖
- 7月4日 タヌキ(2頭)スリランカへ寄贈
- 〃 飼育研究会「染色体による性別判定について」
- 7月7日 オオカンガルー死亡
- 7月10日 第4回サマースクール受付(小学1~6年生計151名)
- 7月11日 ジェンツーペンギン死亡
- 7月15日 セイケイ死亡
- 7月17日 アフガンナキウサギ死亡

- 7月19日 アジルマンガベイ繁殖(1頭)
- 〃 アオバズク保護
- 〃 ニホンザル死亡
- 7月26日 第4回サマースクール開催(~28日)
- 7月27日 アビシニアコロボス日本平動物園へ寄贈

新着及び受贈動物一覧

88年1月1日~88年7月31日

鳥 綱	
ダチョウ エミユウ ジェンツーペンギン ケープペンギン モモイロペリカン コシベニペリカン アフリカハゲコウ ムギワラトキ ショウジョウトキ *1 アフリカヘラサギ ベニイロフラミンゴ チリーフラミンゴ コガタフラミンゴ マガン ハワイガン コクガン ツクシガモ ツバメガン コブガモ ヨシガモ ホオジロオナガガモ ベニバシガモ オジロワシ *2 シロエリハゲワシ エジプトハゲワシ オオタカ *3 イヌワシ ヘビクイワシ ハゲガオホウカンチョウ *1 ヒオドシジュケイ ミカドキジ キタヤマドリ ウスアカヤマドリ オナガキジ クロヅル マナヅル シロエリオオヅル	ホオカザリヅル アネハヅル ハゴロモヅル カンムリヅル ホオジロカンムリヅル セイケイ *4 ソテグロバト ニシムラサキエボシドリ ルリコノハドリ コウライウグイス
	哺乳綱
	オオカンガルー アカカンガルー ルーセットブルーツコウモリ *5 ニシクロシロコロボス *5 ブラッサグエノン *5 オランウータン ミーアキャット カリフォルニアアシカ グレビーシマウマ ハートマンヤマシマウマ マレーバク アジアゾウ アクシスジカ アメキリン セーブルアンテロープ ボンテホック
	*1 上野動物園より受贈 *2 釧路動物園より受贈 *3 旭山動物園より移管 *4 井の頭自然文化園より受贈 *5 日本平動物園より受贈



アメキリン

飼育よもやま話

Animal Episode

パタスザルの人工哺育

Hand-rearing the Patas Monkey

ゴールデンウィークの終わった5月6日に、一昨年、昨年に続いて当園で3頭目のパタスザルの仔が生まれました。

母親が昼間から少しだるそうにしていたので出産が近いかと思われましたが、その後全く歩けなくなってしまいました。おなかにいる仔が死んでいるかも知れません。母親の具合が良くならないようなので動物病院で、おなかにいる仔を帝王切開で取りだしました。

おかげで仔も無事に生まれ、母親も元気を取りもどしたので、母親の胸に仔をしがみつかせましたが、仔が胸から落ちて泣いたりしていても、全く関心を持ってくれませんでした。次の日も何回か試みましたがダメでした。できれば母親に育ててもらいたかったのですが、やむをえずその日より人工哺育に切りかえました。しかし、すぐにはミルクを飲んでくれなかったので何回かは強制的に飲ませました。哺乳器具は犬猫用の哺乳ピンと乳首を使い、人間用の粉ミルクでミルクを作って与えました。

始めは1日の哺乳回数を6回としました。日に日に授乳量も体重も順調に伸びてきましたので、回数も5回、4回と徐々に減らしていき、1ヶ月ぐらいたら



果汁などの離乳食も与え始め、時間がある限り屋外で遊ばせるようにしました。始めのうちは恐がっていましたが、そのうちアリや落葉などに大変興味をもつようになり、2ヶ月ぐらいうると親と同じ食物をほとんど口にするようになりました。

この頃から親の群れに戻す準備を始め、ケージ越しにお見合いをさせましたが、やはり仔のほうがびっくりして泣いてしまいうまくいきませんでした。

8月4日に哺乳を終らせましたが、これからが大変です。親たちと一緒にする努力を続けなくてはなりません。そうしないと、この仔はひとりぼっちで暮らさなくてはなりません。これからもこの仔の成長をあたたく見守っていきたいと思います。

(足立 仁之)

セスジクスクス

Ground Cuscuses

バプア・ニューギニア政府から千葉市に寄贈されたセスジクスクスは、動物科学館の中の夜行性動物舎で展示されており、飼育して約3年になります。

飼い始めの頃は、日本で初めての飼育のため、飼育方法もわからず、動物も新しい環境に慣れていないため、おっかなびっくり、エサにも随分気を使い、いろいろなエサを与えました。多くの種類のエサを食べましたが、クスクスの仲間と同じエサにあきると聞いたので、日替りメニューを考えたり、炊いた御飯をあげてみたりしました。でも今は、リンゴやバナナ、ペレットなど毎日だいたい同じ物を与えてもよく食べるようになりました。時々、木の枝やクローバーなど目先のかわったものをあげます。その食べっぷりを見ると、初めの頃食べなくなったのがうそのようです。

クスクスの雌のおなかには袋があります。赤裸のごく未熟な状態で産まれた赤ちゃんは、自力でこの袋の中に入り、お乳を飲んで数ヶ月間過ごして大きくなります。やがて毛もはえそろい、充分大きくなって初めて、仔は雌親の袋から出るので。始めは出たり入



りですが、だんだん入らなくなります。その頃、大きな仔を袋の中に入れて歩く雌親の姿はどことなくユーモラスです。袋がはちきれそうにふくらみ、床や止まり木にすれそうになりながら、いかにも重たいという感じで歩きます。そして、時々腰を下ろし、足を投げ出して座りこみ、袋の中に口をいれ仔をなめてあげます。今では次に産まれた仔も袋に入らなくなりました。もしかすると、もう3頭目の仔が入っているのかもしれない。

あまり目立たない地味な動物ですが、仕草には愛嬌があります。このセスジクスクスを、足を止めてじっくりご覧になってみて下さい。

(辻村 直美)

健康管理センターから

From the Animal Health Center

お父さんがんばって！

Treatment of wallaby

現在、子供動物園のワラビー舎には、ダマワラビーが2頭飼育されています。お母さんと今年産まれた子供（娘）です。この子供には、当然お父さんがいるのですが、今は両足の指先をわずらって、動物病院の一室で長期療養中です。

このお父さんが、最初に指先を傷めているのがわかったのは、去年の9月半ばですから、かれこれ一年間の長い間、闘病生活を続けているわけです。

ワラビーの後ろ足の指は4本あるのですが、傷めているのはそのうちの一番長い中指です。

始めは指の爪の根元が、少し腫れてふくらんでいる程度でした。しかし、10月になって爪の途中で折れ、2月に左足の爪が根元から取れ、5月に右足の爪も根元から取れ、皮膚が堅くなり（角化）はがれ、皮下の組織も壊死してポロポロと取れてしまい、元の指の長さよりかなり短くなってしまいました。

原因は、いろいろと考えられ、爪が少し伸びていたので、この爪がテコの働きをして爪の根元の組織を傷め、指先の傷から細菌が感染したり、冬の間一時期ワラビー舎へ戻したことがあります、その時霜柱を踏んだり、雪の積もった上を走りまわったりしたことによる「しもやけ」などが、病変の進行を促したものと思われます。

いろいろな薬を指先に塗ったり、エサにませたりしましたが、患部の進行を止めることができず、今では指の骨の先端までも冒されてしまっているようです。

治療はワラビーの尾の根元を手でつかみ、麻袋の中へ放り込んで、後ろ足を交互に麻袋から取り出して、壊死した組織をピンセットで取り除き、抗生物質の入った軟膏等を指に塗り、指先をガーゼで被い、靴下をはかせて指先が汚れないようにしています。

治療中に患部の指先をさわると、鼻息をあら立てて痛がるのですが、治療が終わった後は、そんな痛みもどこ吹く風でピョンピョンと跳び回っています。

1日中ほとんど陽の当たらない一室で毎日を過ごしているお父さんワラビーを、何とかまた芝生の上で跳び回り、まだ見ぬ娘と会わせてあげたいものです。

(中村 誠)



壊死した組織を取り除く



抗生物質入りの軟膏を塗り、ガーゼをかぶせる



筒状のガーゼをかぶせ、テープでとめる



治療終了

昭和63年度（後期）行事予定

行 事 名	実 施 時 期	内 容
特別展「千葉の野生動物」	10月1日～	千葉県にすむトリやケモノについて紹介します。
親子の自然と遊ぶ教室	10月6日	どんぐりや落葉など使って、自然と遊ぶ教室を行います。
秋のZOOクイズラリー	11月6日	園内の動物のクイズを行います。
動物写真公園コンクール	11月1日～30日	入選作品の展示を行います。記念講演会及び表彰式（11月13日）
動物公園のクリスマス	12月4日	クリスマスにちなんでツリーやカードを作ります。
新春特別展	1月5日～31日	干支にちなんだ動物をパネルで紹介します。
バードウォッチング	1月中旬	園内の野鳥の観察を行ないます。
親子のねんど教室	2月中旬	ねんどで動物の作り方教室とコンテストを行い作品を展示します。
春のZOOクイズラリー	3月上旬	園内の動物のクイズを行います。
動物公園ワンポイントウォッチング	毎月第4土曜日に実施	園長のお話や、動物公園の裏側等を案内します。



- ▶開園時間 午前9：30～午後4：30（入園時間は午後4：00まで）
- ▶入園料 大人（高校生以上）500円 小人（小・中学生）100円 小学生未満無料
 （団体） 有料人員30名以上は2割引
 入園料が免除になる方（窓口で手帳を提示して下さい）
 ・千葉県に在住の60歳以上の方で千葉県発行の身分証を持参の方
 ・身体障害者手帳を持参の方及び一種の方の介添人1名
 ・療育手帳及びこれに類する手帳持参の方とその介添人1名
- ▶休園日 月曜日（月曜が休日のときは翌日） 年末年始12月29日～1月3日
- ▶駐車料金 普通車500円 大型車2,000円（マイクロバス含む）

（どうぶつこうえんニュース）
第8号（昭和63年10月1日発行）

●編集 千葉市動物公園

●発行（財）千葉市動物公園協会

〒260 千葉市源町280番地 ☎0472-52-1111 280 Minamoto cho, Chiba City, JAPAN

☎0472-52-1221